



<http://www.orsc.co.jp>



Oriental Shiraishi Corporation

本 社
〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号 (NBF 豊洲キャナルフロント)
TEL: 03-6220-0630

東北支店
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-16-10 (NBF 仙台本町ビル)
TEL: 022-222-4691

東京支店
〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号 (NBF 豊洲キャナルフロント)
TEL: 03-6220-0650

大阪支店
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-9-1 (肥後橋センタービル)
TEL: 06-6446-0243

福岡支店
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-2-31 (第2サンビル)
TEL: 092-761-6931

技術研究所
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘5
TEL: 0285-83-7921

関東工場
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘5
TEL: 0285-83-3655

滋賀工場
〒522-0243 滋賀県犬上郡甲良町大字小川原1080
TEL: 0749-28-0127

福岡工場
〒830-1226 福岡県三井郡大刀洗町山隈150
TEL: 0942-77-2489

尽きることのない 『匠たちの夢』

～ Infinite Dreams of Engineers ～

経営理念

人と技術を活かし、常に社会から
必要とされる集団を目指す。

行動規範

私達の“意義”と“責任”と“可能性”
～私達が、私達であるために～

1. 私達は、「顧客第一の」私達であるために、常に高品質、高機能の建設物を提供し、カスタマーやユーザーのニーズに応える集団であり続けます。
2. 私達は、「競争力豊かな」私達であるために、技術の開発と革新に努めて、個人の能力や組織力を高めるとともに、時代や社会の変化に対して、スピーディーかつ的確に対応できる集団であり続けます。
3. 私達は、「社会から必要とされる」私達であるために、コンプライアンスを徹底し、地球環境に配慮しながら良質の社会資本を構築・整備することにより、社会に貢献する集団であり続けます。
4. 私達は、「安定して発展する」私達であるために、堅実な経営、信用の回復、情報の開示に努め、活力あふれる集団であり続けます。
5. 私達は、「信頼しあえる」私達であるために、快適で働きやすい職場を形成し、お互いの人格を尊重して、能力やモチベーションを高めあい、所属する誇りと《愛着ある帰属感》に満ちた集団であり続けます。

大いなる自然と大地、未来を見つめる都市を舞台に橋梁、高速道路、鉄道やライフライン施設など多種多様な社会資本を構築してきました。人々の暮らしに潤いをもたらす、安全を約束する社会資本の建設には、当社の施工実績と研究開発によって培われブラッシュアップされた技術の数々が活用されています。これからも、都市環境の整備や新たなインフラ構築のほか、既存のインフラの補修・補強、巨大地震やゲリラ豪雨などへの災害対策にも尽力し、「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す」という経営理念のもと、着実な発展を続けてまいります。



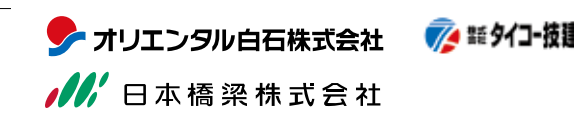
代表取締役社長
井岡 隆雄

Corporate Profile 企業情報

■ 社名	オリエンタル白石株式会社 (Oriental Shiraishi Corporation)
■ 本店所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号
■ 創業	1952年(昭和27年)10月21日
■ 資本金	5億円
■ 売上高	365億円(2015年3月期)
■ 従業員	619名(2015年3月31日)
■ 事業内容	●プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売 ●ニューマチックケーソンの建設工事 ●補修補強の建設工事 ●耐震補強建築工事の設計・施工 ●建設資材の販売 ●太陽光による発電事業及びその管理・運営並びに電気の供給、販売
■ 登録許可	建設業許可：国土交通大臣(特-27)第4018号 建設コンサルタント登録：国土交通大臣(建26)第3761号 一級建築士事務所登録：東京都知事第1483号
■ ISO9001 認証	全事業所 2006年取得 登録番号 RQ0169 登録範囲 ・プレストレス工法による橋梁、その他の土木構造物の設計及び施工(維持保全を含む) ・建築物の施工(維持保全を含む) (“7.3 設計・開発”を除く) ・プレキャストコンクリート製品の設計、製造及び施工 ・建設分野の研究開発業務
■ ISO14001 認証	全事業所 2003年取得 登録番号 RE0314 登録範囲 オリエンタル白石株式会社及びその管理下にある作業所群における「プレストレス工法による橋梁、その他の土木構造物の設計及び施工(維持保全を含む)」、「建築物の施工(維持保全を含む)」、「プレキャストコンクリート製品の設計、製造及び施工」、「建設分野の研究開発業務」に係る全ての活動

OSJBホールディングスグループの一員です。

平成26年4月、純粋持株会社としてOSJBホールディングス株式会社が誕生しました。



商号	OSJBホールディングス株式会社
資本金	10億円
売上高(連結)	443億円(2015年3月期)
従業員数(連結)	781名(2015年3月31日現在)
事業内容	グループ企業の経営計画ならびに管理
所在地	東京都江東区豊洲五丁目6番52号(NBF豊洲キャナルフロント)
株式	東証市場第一部

Technology

独自工法と特化技術で社会基盤を創造します。

プレストレストコンクリート工法

プレストレストコンクリートとは、プレ=あらかじめ、ストレスト=圧力を入れた、コンクリートのことです。鉄筋の5~6倍の強度がある鋼材を引っぱって緊張した後に、コンクリートと固定。鋼材が元に戻ろうとする力を使ってコンクリートを圧縮します。こうして作られたプレストレストコンクリートは、とても強度が高く耐久性に富むことから、さまざまな構造物に活用でき、また地震にも強いため、特に安全性が重視される橋梁や鉄道、上下水道の貯水槽、公共施設などに積極的に取り入れられています。当社は国内屈指のリーディングカンパニーとして、橋梁をはじめとするプレストレストコンクリートの施工技術をけん引し続けています。



木曾川橋



乙川橋

ニューマチックケーソン工法

ニューマチックケーソン工法のニューマチックは「空気の」、ケーソンは「函(はこ)」の意味で、潜函工法ともいわれます。地上でコンクリート構造物「函」を構築し、その下部に設けた作業室で掘削し、地中深くに構造物を沈設させる工法です。地下水の浸入を防ぐため、作業室には圧縮空気を送ります。この工法は作業室内の空間で地盤を確認しながら掘削・排土して「函」を沈めていくことで、あらゆる地盤に対応可能です。長大橋梁の基礎やポンプ場など、数多くの地下施設に活用されています。当社は本工法を日本に導入、発展させてきたパイオニアであり、世界最高の技術と施工実績を誇ります。



レインボーブリッジ



東尾久ポンプ場

PC建築

プレストレストコンクリートは、ひび割れやたわみを抑制し、かつ梁せいを抑えたスレンダーなロングスパン梁を可能にすることにより、無柱大空間が求められる大学の大教室、体育館、企業の執務室など様々な建物に利用されています。また、工場で製作した柱や梁などのプレキャスト部材をプレストレスにより一体化させ、建物を構築するプレキャストプレストレストコンクリートを用いると、現場における工期短縮や、現場廃棄物の削減、騒音の低減など環境負荷の保全にも有効であり、造形美に優れるとともに高品質で耐久性の高い建築物を造ることができます。当社はPC建築のパイオニアとして、これからも利用者が安全で快適に過ごせる建築物を提供していきます。



スカイホール豊田



カセデンキスタジアム水戸

補修・補強

1960年代以降急速に整備が進んだ社会基盤も、今や約半世紀の時を経て老朽化が問題視され、インフラの更新や維持管理は、まさに喫緊の課題として対応を迫られています。当社は、来るべき「社会基盤のリニューアル時代」を予測し、社会のニーズに応えるべくさまざまな補修・補強、メンテナンス技術を開発しています。当社は耐震化などの国土強じん化やインフラ老朽化対策に高い技術と独自の工法で他に代え難い存在感を発揮し、インフラ整備に貢献していきます。



上長房橋床版取替



浦戸大橋下部工補強

■技術研究所

シンクタンクとして機能する技術研究所。コンクリート構造物の未来を担うスペシャリストがさまざまな開発をしています。プレストレストコンクリートに関する材料および構造をはじめ、耐久性・メンテナンス・環境負荷低減に至る幅広い技術について試験・解析・研究開発を行っています。さらに、社内外への技術協力や支援、技術系社員の教育に加え、開発に関する広報活動もおこなっています。

研究開発



材料・施工研究設備



構造研究設備



■機材開発

担い手不足や熟練技術者が減少していく中、大深度や高架・高層など工事の難易度は上がっています。現在の社会ニーズである「省力化・効率化・安全性の確保・生産性の向上」に応えるためには、建設用機械の先進的な技術を利用し、建設工事におけるロボット化やICT化に加え、操作性の改善を実現することが急務となっています。建設機械のスペシャリストが新発想の建設機械を開発することで、建設工事における新たな価値を生み続けています。

橋梁架設機



ニューマチックケーソン掘削設備



Awards

主な受賞作品(2000年～)

年度	工事名	企業者	賞名
2000	土狩大橋	北海道開発局	田中賞
2001	木曾川橋	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞
2001	森のわくわく橋	福島県	田中賞、PC 技術協会賞
2003	芝川高架橋	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞、 2006 年度土木学会デザイン賞
2003	のぞみ橋	中部地方整備局	田中賞、PC 技術協会賞
2004	矢作川橋【豊田アローズブリッジ】	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞、 日本コンクリート工学協会賞
2004	鎌山谷橋	徳島県那賀町(旧相生町)	PC 技術協会賞(技術開発部門)
2004	安城高架橋	日本道路公団	PC 技術協会賞(技術開発部門)
2004	つくばエクスプレス(鉄道)PCU型桁式高架橋	(独)鉄道・運輸機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	大平高架橋	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	志津見大橋	中国地方整備局	PC 技術協会賞(作品部門)、 2007 年度土木学会デザイン賞
2005	天竜川橋	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	高速 6 号清州線「新名西橋工区」	名古屋高速道路公社	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	芋川橋災害復旧工事	NEXCO 東日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2005	子野川橋床版改良工事	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2007	徳之山八徳橋	(独)水資源機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2008	億首川橋リニューアル	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(作品部門)、 日本コンクリート工学協会賞
2009	九州新幹線 大野川橋りょう	(独)鉄道・運輸機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2009	パームジュメイラ・モノレール高架橋	アラブ首長国連邦ドバイ首長国	PC 技術協会賞(作品部門)
2010	交野高架橋	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2011	向佐野橋リニューアル	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2012	さがみ縦貫相模原 ICF ランプ改良工事	関東地方整備局	PC 工学会賞(施工・技術部門)
2012	第二音戸大橋	広島県	土木学会田中賞
2014	J R 総武線市川・本八幡間外環こ道橋新設工事	JR 東日本 NEXCO 東日本	土木学会技術賞 (我が国初の既設 RC 高架橋を長スパン化 して受替える両体構築技術)
2014	伊良部大橋	沖縄県	土木学会田中賞



志津見大橋



芝川高架橋

History

沿革

オリエンタル建設の歩み

1952年	オリエンタルコンクリート株式会社設立 P C マクラギ製造開始
1953年	P C シェッド第 1 号施工 P C 鉄道橋第 1 号(光弦橋)施工 ポステンブロック道路橋第 1 号(新船橋)施工
1955年	ケーブルエレクション工法第 1 号(菊池川橋)施工
1956年	P C 建築第 1 号(南淡町庁舎)施工
1958年	国内初の P C タンク(子安調整水槽)施工 P C 舗装第 1 号(大阪市道路)施工
1960年	日本初の P C プレハブ重層建築による本社ビル完成
1961年	国内初モノレール軌道桁(奈良ドリームランド)施工
1968年	大阪万国博覧会モノレール軌道桁製作
1973年	国内初の P C トラス橋(岩鼻架道橋)施工
1975年	ドライコンタクト工法第 1 号(塚原橋)施工
1980年	P C R 工法第 1 号(大野田 B V)施工
1983年	国内初の卵形消化槽(横浜市北部第二処理場)施工
1984年	国内初のパイプレストレッシング工法(川端橋)施工
1988年	国内初のロアリング工法によるコンクリートアーチ橋 (内の倉橋)施工
1990年	オリエンタル建設株式会社に社名変更
1995年	東京証券取引所第二部に株式上場
1996年	東京証券取引所第一部に株式上場
2002年	波形鋼板ウェブ P C 橋・前谷橋完成
2003年	I S O 1 4 0 0 1 会社認証取得
2004年	台湾新幹線 P C 軌道スラブ納入

白石の歩み

1933年	大倉土木株式会社、株式会社鹿島組、合資会社清水組、 株式会社大林組、株式会社間組、合資会社竹中工務店、 鉄筋コンクリート株式会社及び白石多士良との 共同出資によって「白石基礎工業合資会社」を設立
1938年	白石基礎工事株式会社設立
1966年	インドネシア海軍スラバヤグレーピングドック工事の技術支援
1967年	大阪地下鉄堂島川沈埋トンネル施工
1971年	中部電力浜岡原子力発電所施工
1972年	東北新幹線大宮北高架橋施工
1977年	太田川流域西部浄化センター施工
1979年	本州四国連絡橋門崎高架橋施工 昭和記念公園展示場大橋施工
1981年	遠隔操作によるニューマチックケーソン掘削開始(名港トリトン)
1983年	「白石基礎工事株式会社」から「株式会社白石」に社名変更
1990年	世界最大のニューマチックケーソン基礎の施工(レインボーブリッジ)
1991年	株式の店頭登録
1993年	ヘリウム混合空気呼吸システムによる 世界初のニューマチックケーソンの施工
1997年	東京証券取引所第二部に株式上場 韓国永宗大橋連絡吊橋下部工事技術協力
1999年	世界最深のニューマチックケーソン工事施工(大阪市柴島立杭工事)
2001年	I S O 9 0 0 1 : 2 0 0 0 全社審査登録 在日米軍技術本部横田基地燃料ポンプ工事施工
2004年	東海北陸自動車道寺本トンネル工事施工資格「S I ニューマ」開発

「オリエンタル建設株式会社」と「株式会社白石」は、主たる事業のプレストレストコンクリート橋梁上部工と、ニューマチックケーソン工法下部等の上下部一式工事発注対応の推進や、両社の技術力と施工力による新開発事業を図るべく、新しい大きな夢を抱き合併しました。設計・施工体制の強化と効率化や技術・施工力を高め、さらに社会に信頼される会社を目指します。

オリエンタル白石の歩み

2007年10月	「オリエンタル建設」と「白石」が合併し、「オリエンタル白石」が誕生
2008年11月	東京地方裁判所に会社更生法の適用を申請
2010年5月	東京都江東区豊洲に本社を移転
2011年10月	会社更生手続終結
2011年12月	「日本橋梁」と経営統合
2012年6月	「ピアリーフレ工法(曲げ補強仕様)」を開発(NETIS 登録番号: KT-120096-A)
2013年7月	国土交通省近畿地整局長より「平成 25 年度工事成績優秀企業」として認定
2013年7月	「水路トンネル耐震補強工法」を開発
2013年7月	プレキャスト桁の新しい連結工法「SCB工法」を開発
2013年8月	「STEP工法(河川環境に配慮した仮締切工法)」の玉石混じり砂地盤への適用を開始
2014年1月	狭隘な鉄道高架橋下で橋脚の耐震補強が可能な「RSPリフトアップ工法」を開発
2014年3月	「P C 構造物の残存プレストレス推定手法」を確立
2014年4月	当社グループが純粋持株会社体制へ移行し、「OSJ Bホールディングス」の子会社となる
2014年7月	国土交通省近畿地整局長より「平成 26 年度工事成績優秀企業」として認定
2015年4月	太陽光発電事業開始

独自の工法で社会基盤を創造する

 オリエンタル白石株式会社

URL:<http://www.orsc.co.jp/>

Recruiting guide

 オリエンタル白石株式会社



未来への 歴史を刻む、 アグレッシブな人材を 求める。

今、オリエンタル白石は、日本の社会基盤を支えて行くアグレッシブな人材を求めています。

当社は、日本におけるプレストレストコンクリート工法導入初期から工法開発に着手した「オリエンタルコンクリート」と、ニューマチックケーソン工法をはじめとする基礎工法のパイオニアである「白石基礎工事」をルーツとしています。共に技術者集団だった「両社」のDNAは綿々と引き継がれ、技術に裏付けられた業績を残してきました。

時代のニーズに応えるため、常に新しい技術を開発する創造力と、それを維持・発展させていくチャレンジスピリッツ。こうした企業風土が、導入からすでに数十年を経たプレストレストコンクリート工法やニューマチックケーソン工法を過去のものとして、世界的に見ても最高水準の当社の特化技術へと成長させたといえます。また当社では独自の研究と蓄積されたノウハウから、さまざまな耐震補強や補修技術も開発。成熟期に入った日本に、なくてはならないインフラ再生技術として注目されています。

業界で傑出した工法を多く有し、広く社会に貢献してきたオリエンタル白石は、未来に向けたこれからの歴史を築いてゆくため、若々しい創造力と明日を拓く行動力を持った人材を求めています。オリエンタル白石を新たなステージへと昇華させるために。

独自工法と特化技術で社会基盤を創造する。



プレストレスト
コンクリート
工法

ニューマチック
ケーソン工法



補修 補強



常に社会から必要とされる集団であるために。

大いなる自然と大地、未来を見つめる都市を舞台に橋梁や高速道路や鉄道、ライフライン施設など多種多様な社会資本を構築してきた、オリエンタル白石。人々の暮らしに潤いをもたらす、安全を約束する社会資本の建設には、当社の研究と経験によって培われブラッシュアップされた技術の数々が活用されています。

そして、これから。東京オリンピック開催に向けた都市環境の整備や新たなインフラ構築のほか、既存インフラの補修・補強、巨大地震やゲリラ豪雨などへの災害対策にも尽力。

「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す」という経営理念のもと、着実な発展を続けてまいります。

■プレストレストコンクリート工法

プレストレストコンクリートとは、プレ=あらかじめ、ストレスト=圧力をかけられた、コンクリートのことです。鉄筋の5~6倍の強度がある鋼材を引っぱって緊張させた後に、コンクリートと固定。鋼材が元に戻ろうとする力を使ってコンクリートを圧縮させます。

こうして作られたプレストレストコンクリートは、とても強度が高く機能的であることから、さまざまな構造物に活用。また地震にも強いいため、特に安全性が重視される橋梁や鉄道、上下水道の貯水槽、公共施設などに積極的に取り入れられている技術です。特に当社の橋梁分野での施工技術は、世界最高水準であると自負しています。

■ニューマチックケーソン工法

ニューマチックケーソン工法 (Pneumatic Caisson Method) のPneumaticは「空気の」、Caissonは「函(はこ)」の意味で、潜函工法ともいわれます。地上でコンクリート構造物「函」を築造し、下部に設けた作業室で掘削し、地中深くに構造物を沈設させる工法です。地下水の浸入を防ぐため、作業室には圧縮空気を送ります。この工法は作業室内の空間で地盤を確認しながら掘削・排土して「函」を沈めていくため、あらゆる地盤に対応可能で、長大橋梁の基礎やポンプ場など、数多くの地下施設に活用されています。

特に当社は本工法を日本に導入、発展させてきたパイオニアであり、世界最高技術と施工実績を誇ります。

■既存の社会基盤への補修・補強

1960年代以降急速に整備が進んだ社会基盤も、今や約半世紀の時を経て老朽化が問題視され、インフラ更新や再生は、まさに喫緊の課題として対応を迫られています。

当社は、来るべき「社会基盤のリニューアル時代」を予測し、社会のニーズに応えるべくさまざまな補修・補強、メンテナンス技術も開発。特に巨大地震への備えとして、さまざまな構造物に対しての耐震強化技術を完成させてきました。

これからも都市の未来を見つめ、さらなる技術の研鑽を進めてまいります。



■ 私のキャリア

2008年の入社後、東京支店の施工・技術部、土木工事チームに配属。
同年5月から第二東名高速道路・宮ヶ島高架橋PC上部工下り線工事の施工現場入り。
7月には上伊佐布第三高架橋PC上部工下り線工事現場を担当。
2011年3月からは中部横断自動車道・湯沢第二橋 PC 上部工工事を担当。
同年9月から現在の所属である本社施工・技術本部の技術研究所に配属となる。

私が所属している「技術研究所」は、多岐にわたる仕事を受け持っています。まず柱となる、プレストレストコンクリートやニューマチックケーソンをはじめとした、土木・建築に関する材料および構造物の耐久性やメンテナンス、さらには各工法の環境負荷軽減に対する試験や解析、技術の研究とその開発です。そしてその結果を基にした、現場への技術協力と支援、技術系社員へのコンクリート分野についての教育。加えて研究などで得られた成果を学会で発表し、論文執筆や学会誌に投稿するなどの開発に関する広報活動も、技術研究所の大切な役割の一つです。

そんな多くの仕事の中で今、私が担当しているのは、施工技術の開発。その中の一つとして、構造物内へ充てんする材料が、しっかり充てんされているかを検知・評価できる手法の開発です。こうした研究は地味な印象ですが、新しい技術が集まれば建設プロジェクトの受注に繋がったり、実際の現場施工に高品質化と高速化をもたらすことができると思います。今より素晴らしい構造物をもっと安全に、効率的に世に送り出すために、日々研鑽しています。

技術研究の仕事に携わって一番楽しいのは、今ないものを開発するために「0から考え作り出す」こと。そして実際の建設現場に採用され、形になることです。もちろんその過程には苦しさもあります。何故なら、技術開発における答えは常に一つではなく、解決までの道筋も1本だけとは限らないからです。

悩み、迷い、試行錯誤する時もあります。でも先輩に相談しながら自分なりの工夫を続けた末の完成は、何物にも代え難い喜びと達成感を味わわせてくれます。ただし必要とされる技術の研究・開発を行うには、大学で学んだ知識だけでは足りません。現場を知り、さまざまな分野に関する知識も持たなければなりません。私もオリエンタル白石に入社してから約3年半、第二東名高速道路などの橋梁現場に関わっていました。その間、現場の先輩や協力会社の皆さんに建設とは何たるかを教わりましたが、その知識は今になってとても役立っています。あたりまえのことですが、実際の工事は人がするもので、机上で終るものではありません。現場では本当にいい勉強をさせてもらいました。

今より素晴らしい構造物を「もっと安全に効率的に世に送り出すこと」が使命です。

東 洋 輔 2008年入社

■ 本社 施工・技術本部 技術研究所



皆さんが目指している建設業界には、いろいろな会社があります。土木系が得意な会社建築を主に行っている会社。作る構造物も、橋やトンネル、超高層ビル、共同住宅などさまざまです。社会人として活躍するフィールドを考える時、まず自分の「興味のあるもの」「好きなもの」をなるべく具体的にイメージすることが大切です。例えばオリエンタル白石は、橋梁の上下部施工に確かな技術と多くの実績があります。プレストレストコンクリート技術やニューマチックケーソン技術、各種の補修・補強技術など、特殊技術を発展させ続けることで競争優位性を発揮しています。

このように得意部門があるのは同業他社も同じ。各社とも必ず魅力的なコア技術を持っています。自分の進みたい方向に迷わず歩き出すために、まず広い視野でそれぞれの会社を見比べてください。必ず答えが見つかるはずですよ。

今、老朽化が進むインフラ設備の補修や補強、東北の復興事業、東京オリンピックに向けた社会基盤の整備の必要性から、建設業界をめぐる状況は大きく変化しています。ぜひ将来を見据えた技術を有する企業を選んでください。



■ 私のキャリア
入社から土木工事チームに所属。
以来12年、主に橋梁上部工の工事現場で施工管理や現場運営を担当。
最近では橋梁下部工やニューマチックケーソンなどの施工管理にも当たっている。

「施工図は職員から職人へのラブレターと同じだ」。入社から数年経ったある日、現場で大工の親方に言われたひとことです。ラブレター。つまり自分の考えていることを相手にわかってもらえるように、もっと心を込めて書け、という戒めでした。施工図は、作業工程や施工方法を職人さん達に正確に伝えるために、ほぼ毎日書き起こす書類。現場で働く100人、200人が同じ方向に進むために、なくてはならないものです。当時、何年か現場の仕事を手がけ、一人前になったように自惚れていたのかもしれない。

この業界の大先輩いわく「5年でようやく使いものになって、10年で一人前」なのだとか。私も入社から12年。一人前かどうかはさておき、現場で人を動かす難しさを痛感させられています。現場は着工から竣工まで、職員や職人さん達が丸とらなければ進みません。しかも決められた工期の中で、高品質な構造物を施主に納め、利益も上げる…。荒天で日程が遅れることもままたり、工期中に問題は山積していきます。それだけに、完成した時の喜びと達成感はとても大きい仕事です。

私は現在、日本でも有数の施工規模となる下水処理場建設現場で、ニューマチックケーソン工事の施工管理業務を行っています。現場が大きくなれば責任も大きくなりますが、それと同時に自分で施工方法を決め、実際に建設することができるという権限も与えられます。ただし工事は一人ではできません。同じ職場で働くたくさんの仲間の協力があってこそ。設計や積算、営業、事務管理など各部署の社員、現場で力を貸してくれる職人さん達の後押しがあってようやく成し遂げられるものです。

私の現場での立場はいわば「舵取り役」。さまざまな条件の自然を相手に工事を進めていくため、予測困難な問題も多く発生します。そんな時、みんなと話し合っ解決方法を探し、構造物の完成へと導くことこそ、この仕事の面白さであり醍醐味でもあります。気が付けば10年以上現場にいる私ですが、まだまだ「これだけは誰にも負けない」というものが持てずにいます。それが何なのかはまだわかりませんが、現場以外の新しい分野の仕事も経験しながら見つけていきたいと思っています。

「施工図は職員から職人へのラブレター」 この言葉を戒めとして仕事に打ち込んでいます。

山崎 一裕 2002年入社

■ 東京支店 施工技術部 土木工事チーム



オリエンタル白石は、優れた特化技術を持つ歴史ある2社が合併して誕生した、新しい建設会社です。そのため、当社の設計・施工には、他社の追随を許さない技術が多くあります。決して大きくはありませんが、業界の中では確かな存在感を示している会社です。他のゼネコンと共同の現場で働いていると、当社のニューマチックケーソンやプレストレストコンクリートに関する技術力の高さを褒められることがよくあります。これはオリエンタル白石の前身である、「オリエンタル建設」と「白石」が、それぞれに磨き上げてきた技術を後輩となる私達が、確かに受け継いでいるという証だと思っています。

私もいつの間にか「中堅社員」になりました。今まで先輩社員や職人さん達に教えていただいた技術や工夫を今度は若い仲間達に伝えていかなければなりません。「当社で引き継がれてきた高度な技術で、社会に貢献してみたい」そんな気持ちがある方は、ぜひ当社の扉をノックしてください。これからのオリエンタル白石を支えていく仲間に出会えることを楽しみにしています。

senior
message



福田 峻也

senior message

2008年入社
■ 東京支店
PC 建築グループ 設計担当



北尾 玲子

senior message

1999年入社
■ 本社 経営企画室

1/百数十人であることの責任と誇りを胸に、 PC建築設計に取り組んでいます。

日本中でたった百数十人。それがPC(プレストレストコンクリート)建築設計ができる技術者の数です。私はその中の一人として、オリエンタル白石のPC部材の設計を担当。PCの物件を担当している設計事務所への提案をしています。実はPC部材を取り入れた工法は、建築の世界ではまだ一般的な技術ではありません。しかしビルなどの施工主からは「室内に柱のない、広々とした空間が欲しい」といった、PC技術が必要な注文が増加してきました。そこで当社が提案して、PC部分の設計的な検討を行うわけです。

当社のコア技術であることから、PCを使った建物の設計・施工は、間接的ながら当社技術の普及と営業活動に繋がっていると自負しています。もちろん梁などの部材設計とはいえ、しっかりした構造計算の上、安全性を十分確保しなければなりません。また、施工性や経済性といった課題も、設計事務所の方と一緒に方策を探ります。この作業はまさにアイデア勝負。「設計者はアイデアを出せる技術者でなければならない」という、上司の名言を噛み締めながら仕事をしています。

私がオリエンタル白石に入社したのは、大学で所属していたコンクリート研究室担当教官から勧められたのがきっかけでした。当時は土木に感心があり橋梁を作る仕事に携わりたいと思っていましたが、配属予定は建築。幸いこちらの分野にも興味があったので、そのまま入社しPC建築の設計者として今日に至っています。

振り返ればもう5年、ずっとPC建築設計を行ってきましたが、最近とても嬉しい出来事がありました。それは、いつもお世話になっている提案先の設計事務所から送られてきた建物の完成写真と、「またPCを使う仕事があるので、その時はよろしく」という連絡をいただいたことです。この写真の建物は短い設計期間の中、何度も設計アイデアを求められて苦労した物件だっただけに、喜びもひとしおでした。それに次の仕事の依頼をいただいたことで、設計事務所の方と信頼関係が築けたと確信しました。これからの私の目標は、どんどん設計を行っていくことで当社のコア技術を広めること。そして自分自身の知識を深めて、社内外から信頼される技術者になりたいと思っています。

会社の中核部署にも女性を積極的に起用。 女性ならではの視点を大切にしようとしています。

まず皆さんに知っていただきたいのは、オリエンタル白石が古い体質の建設会社ではないということです。建設業界についてよく聞くのは「男社会で荒っぽい」というイメージ。確かに少し前までの建設業界は、全体的に男性中心の世界でした。でもそれでは、女性社員が肩身の狭い思いをしてしまいます。もし育児休暇の充実などで女性が長く働ける会社なら、男性にとっても居心地がいいはずですよ。

設計や現場に優秀な女性技術者が進出している今、女性の活躍を支援するために、オリエンタル白石は女性ならではの視点を大切に会社の中核部署にも女性を積極的に起用しようとしています。私自身、今年、当社の経営方針や戦略、事業計画の立案・作成等で社長を補佐する部署である経営企画室の所属になりました。女性の総合職としては当社初の転勤で、しかも中核部署への配属になったために、右も左もわからないことだらけの現状です。でも、会社の中核部分に触れることができるのは、経営企画室ならではの。

一日も早く役に立つ人材になりたいとの思いで、毎日、一生懸命に勉強をしています。

建設業の現場は、まさにモノが作られていく最前線。それに比べると事務系社員は実際のモノ作りをしていないので、地味に映るかもしれません。でも、現場が滞りなく進捗し技術系社員が腕を振るえるのも、事務系社員が裏で支えているからできること。また、大きなランドマーク的建築物を作る会社だからこそその誇りも持てます。

当社は第二東名高速道路に架かる橋梁をいくつも施工しているの、友人に「あの橋を作ったのはウチの会社」なんて、ちょっと自慢したりすることも…。

建設業界の事務は、なぜか事務職を希望する学生さんから敬遠されがちですが、ぜひオリエンタル白石に来て当社の素の姿を見てください。きっと建設会社の見方が変わるはずです。男性社員は内勤の方も現場に出ている方も、皆さんとても紳士的。優しく大らかな方ばかりです。また、社員数600人ほどの小ぶりの会社ですから、事務職と技術職の隔たりがなく、仲がいいのも当社の特長だと思います。合併してからまだ日の浅いオリエンタル白石は、これからの会社です。ぜひ一緒に成長していきましょう。